

薬師寺文書の調査

歴史研究室は、薬師寺の古文書調査を、1980年以來の長きにわたって、東京大学史料編纂所（以下、史料編纂所）と協力して続けてきました。やっと古文書の全体像がみえてきましたので、2018年度に、目録の第1冊目を刊行することにしました。改めて史料編纂所と連携研究の協定を結び、両所の共編という形で刊行することになりました。

薬師寺は奈良時代以來の寺院ですが、火災や戦乱の結果、古代の古文書は散逸してしまいました。しかし、中世以來の古文書が多く残っています。寺院運営のために書き留められた記録や、戦国大名の書状等からは、当時の社会を生き生きと読み取ることができます。また、古代以來の法会を、戦乱の時代にも絶えることなく、連綿と実施してきました。そのような法会の記録や文書のありようからは、古代薬師寺の息吹が感じられます。そして時代とともに少しずつ変化しながら現在にいたっている様子をうかがうことができます。現在も春に花会式がおこなわれていますが、そのような法会の背後には、長い歴史が隠れているのです。

その歴史を読み解くカギとなるのが古文書です。それを広く利用できるように、日々、古文書解説に精を出しています。（文化遺産部 吉川 聡）



室町から桃山時代の薬師寺法会関係文書